

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地							
日本工学院八王子専門学校		1987/3/27		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地							
学校法人片柳学園		1956/7/10		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111							
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士					
文化・教養		芸術専門課程		スポーツ健康学科 スポーツビジネスコース		平成25年文部科学省認定		-					
学科の目的		スポーツ関連商品の販売や、各種スポーツイベントの企画・運営について実践的に学習。プロジェクト達成型演習により実務能力の基礎力を養います。また、企業連携により在学中から現場をリアルに体験できます。											
認定年月日		平成28年2月19日											
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験		実技	
2年		昼間		1,700		900		600		1,035		510	
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		時間	
160人の内数		50人		0人		5人の内数		17人の内数		22人の内数			
学期制度		■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S: 90点以上 A: 80～90点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下不合格 P: 単位認定							
長期休み		■学年始: 4月1日～ ■夏季: 7月22日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月4日 ■学年末: 3月22日～3月31日		卒業・進級条件		【進級要件】 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 【卒業要件】 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること							
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。		課外活動		■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭							
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) (株)ディグリゾート45、(株)ファクトリージャパングループ、(株)ジャクパ、(株)ラケットショップフジ、(株)ベアハグ、シグマロジスティクス(株)、ニッカホーム(株)、(株)三和 ■就職指導内容 合同企業説明会、個別企業説明会、企業訪問、就職ガイダンス、個人面談、業界研究、グループディスカッション・模擬面接等 ■卒業生数 : 31 人 ■就職希望者数 : 28 人 ■就職者数 : 23 人 ■就職率 : 82 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 74 % ■その他 ・日本工学院八王子専門学校 スポーツ健康学科三年制編入: 3人 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)							
						資格・検定名		種別		受験者数		合格者数	
						ビジネス能力検定		③		32人		32人	
						販売士検定3級		③		23人		7人	
						スローエアロビック		③		3人		2人	
						コンディショニングインストラクター		③		6人		6人	
						①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄							

	<p>■中途退学者 4名 ■中退率 6%</p> <p>令和2年4月1日時点において、在学者65名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者61名(令和3年3月31日卒業者をを含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 就職、出席不良による留年 等</p>
中途退学の現状	<p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任/科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・片柳学園入学金免除制度・若きつくりびと奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科のホームページURL	<p>https://www.neec.ac.jp/department/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
スポーツビジネス分野に関し、企業等と連携体制を確保してヒヤリングを実施し、実務に関する知識や必要とされる技術等を調査し、授業科目等の開設などカリキュラムを年度ごとに見直す。そのため、学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。
本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
中山 哲郎	一般社団法人日本ツーリズム推進機構	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	①
小川 和彦	藤越衣料株式会社	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
島田 和茂	株式会社ヴィッツ	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
伊藤 茂彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (3月・8月)
(開催日時(実績))
第1回 令和2年8月20日 9:00～10:30
第2回 令和3年3月2日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
スポーツビジネスの中の3大スポーツ支援産業とされる「小売」「メディア」「観光」において、「小売」領域の教育内容補強を今後の第一改善課題とする。「メディア」「観光」の2領域については、小売領域との関連性の中で必要とされる部分を取り上げながら教育配分の調整を行う。販売に関する授業として、メーカー・小売業の仮想企業活動を「販売演習(30h)」「地域プロジェクト企画演習(120h)」で実施。※コロナ禍のため外部NGだったので学内にて授業を工夫して行った。
コロナ禍以前よりも、デジタルスキル、コミュニケーション能力が高い人材が求められるとの意見から、連携企業の授業にどう反映させていくか、検討することとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
スポーツビジネス分野に関し、企業等と連携体制を確保してヒヤリングを実施し、実務に関する知識や必要とされる技術等を調査し、授業科目等の開設などカリキュラムを年度ごとに見直す。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。1年次においてはスポーツビジネスの実践的な課題を実施する上で必要な基礎的な販売促進やマーケティング、地域連携、施設活用等に関する基本知識を学び、課題は連携企業と協議し、学生自身が自主運営できるような課題設定を行っている。2年次においては、クロスマーケティングスポーツ株式会社(ゼビオ社)が実施する「3 by 3バスケットボール.EXEイベントの学内実施」課題を行う。企業から講師を派遣してもらい、オリエンテーション・中間講評・プレゼンテーションに立ち会ってもらい、学生のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力についても指導する。企業課題終了後は、学生の学習評価を踏まえ、改善・工夫について連携企業と協議する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
イベント企画・演習1	地域スポーツイベントの実施に向けたプロジェクトメンバーの一員として大会準備活動に参加します。また、イベント業界での仕事について、市場動向や業務内容、業界の将来性・課題について、企業から説明を受け、考察します。	ファイルフォックス八王子

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「フィットネス×IOT・ICT」
 (連携企業等:コードブック株式会社 細野貴文)
 期間:令和2年8月23日 16:10-17:30
 我々を取り巻く環境・Withコロナ時代を考える

2) 研修名「スポーツ×IOT・ICT」
 (連携企業等:コードブック株式会社 細野貴文)
 期間:令和3年3月5日9:30-11:00
 テクノロジーとの今後の社会・専門分野の教育を考える

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「コーチングについて」
 (連携企業等:株式会社ヒトスパイス 代表取締役社長 野本知里)
 期間:令和2年8月30日 16:10-17:30
 近年の学生(若者の傾向)を考えた指導力向上

2) 研修名「昨今のスポーツ業界への就職指導力向上」
 (連携企業等:株式会社キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室館勲)
 期間:令和3年3月5日11:20-12:50
 学生が希望する就職への指導力を高める

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「スポーツ×IOT・ICT」
 (連携企業等:コードブック株式会社 細野貴文)
 期間:令和3年8月4日10:00-11:30
 スポーツ・健康分野における動画作成のコツ①

2) 研修名「スポーツ×IOT・ICT」(案)
 (連携企業等:コードブック株式会社 細野貴文)
 期間:12月~3月を予定
 スポーツ・健康分野における動画作成のコツ②

②指導力の修得・向上のための研修等

1)研修名「学生指導のための教員力向上」

(連携企業等:NPO法人日本スポーツトレーナー協会 代表 岡田忠雄)

期間:令和3年7月29日10:00-12:00

近年の学生を考えた指導力とは①

2)研修名「学生指導のための教員力向上」(案)

(連携企業等:NPO法人日本スポーツトレーナー協会 代表 岡田忠雄)

期間:12月~3月を予定

近年の学生を考えた指導力とは②

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム (7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許 取得の指導體制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者 との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情 報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

(3)学校関係者評価結果の活用状況

ICT教育を全カレッジ全学科の必須の基盤教育として推進していく。これを実現していくために、東京工科大学と連携して教育内容のIT化を推進していく。教育方法のIT化の推進を実現するため、今年度においては、特にICTを活用した先進的で分かり易い教材・教育方法等の開発・実践を進める。

コロナ禍でのオンライン授業などに対応するため、利用し易いIT環境を順次整備を進めている。また、対面授業においても専門家からの意見を参考に、引き続き感染防止対策に万全を尽くしていく。

教員もコロナ禍における授業体制に対応するスキル向上のため、今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を積極的に活用できるよう教員の研修体制を整えていく。

地域連携・高専大連携、国際連携等を積極的に推進していく。

募集活動においては、オンライン面談(実施済み)・オンライン出願なども実施していく。また、経済的な問題を抱えている学生へは、高等教育の修学支援新制度を周知しながら修学継続できるような支援策を実施していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 令和3年7月31日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和2年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

(3) 情報提供方法

ホームページ

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程スポーツ健康学科 スポーツビジネスコース)令和3年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル1	社会人になるために必要なヒューマンスキルを身につけます。	1・前	30	2	○			○			○	
2	○			PC活用1	コンピュータ・メディアを利用したコミュニケーションが及ぼす社会的、心理的影響について検討し、それらを理解するために必要な基礎的概念や理論について学習します。	1・前	30	1			○	○			○	
3	○			ENGLISH 1	英語の口語表現と会話方法を中心とした英語運用能力の習得を行います。	1・前	30	2	○			○			○	
4	○			ビジネスプレゼンテーション1	自分を取り巻く諸事情を理解するため必要な言語的、数学的思考法についての復習を行い、社会人として求められるヒューマンスキルの習得を目指します。	1・前	30	2	○			○		○		
5	○			スポーツビジネスレビュー1	スポーツビジネスに関する最近の事象を多角的に捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・前	30	2	○			○		○		
6	○			企業・業界研究	変革を続けるスポーツ業界の中で、企業が求める人材像の変化について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
7		○		メディア1	スポーツとメディアの関係についてディスカッションを中心に、基礎的なメディア・リテラシーを習得します。	1・前	30	2	○			○			○	
8	○			イベント企画・演習1	イベント企画・提案を行うための基礎的な知識も身につけながら、地域スポーツやアウトドア実習等と関連させたレクリエーションアクティビティの企画・提案を行います。	1・前	120	8		○		○		○		○
9	○			販売士検定対策講座1	リテールマーケティング(販売士)検定試験に求められる基礎知識を習得します。	1・前	30	2	○			○			○	
10		○		スポーツイベント検定対策講座	日本イベント産業振興協会が認定するスポーツイベント検定の資格取得を目標とし、より適切で効果的なイベントを実施するために必要な基礎知識について体系的に学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
11	○			球技1	イベント企画・演習で導入する様々なスポーツ種目を体験します。それぞれの種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで体験をします。	1・前	30	1			○	○		○		
12	○			インターンシップ	ボランティア活動等に参加し、就職活動に有益となる業界知識の取得や業務内容の体験を行います。	1・前	15	0			○		○	○		
13		○		レクリエーションスポーツ	スポーツ指導の現場でのレクリエーションの考え方と、さまざまな場面での運動方法を学びます。	1・前	30	1			○	○		○		
14		○		スイミングA	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1			○	○			○	
15		○		フィンワーク実習	プールにて3点セット(マスク、フィン、スノーケル)を使用し、フィンワーク(泳ぎ方、素潜り)技術を養います。	1・前	30	1			○	○			○	
16	○			ビジネススキル2	社会人になるために必要なヒューマンスキルを身につけます。	1・後	30	2	○			○		○		
17	○			PC活用2	コンピュータ・メディアを利用したコミュニケーションが及ぼす社会的、心理的影響について検討し、それらを理解するために必要な基礎的概念や理論について学習します。	1・後	30	1			○	○			○	

18	○		ENGLISH 2	英語の口語表現と会話方法を中心とした英語運用能力の習得を行います。	1・後	30	2	○			○								
19	○		ビジネスプレゼンテーション2	自分を取り巻く諸事情を理解するため必要な言語的、数学的思考法についての復習を行い、社会人として求められるヒューマンスキルの習得を目指します。	1・後	30	2	○			○								
20	○		スポーツビジネスレビュー2	スポーツビジネスに関する最近の事象を多角的に捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・後	30	2	○			○								
21	○		スポーツ用品論	スポーツ産業を構成する諸産業に分解し、特にスポーツ用品の小売りに焦点をあて、産業構造、商品特性、流通のしくみについて解説します。	1・後	30	2	○			○								
22	○		データ分析	簡単な確率・統計手法を用いて収集データの見方や分析の基本を学ぶとともに、その背後にある社会や経済の諸現象などを把握・検証するための術について学びます。	1・後	30	2	○			○								
23	○		メディア2	メディア1で学んだメディアリテラシーを基盤に、テレビ映像やスポーツ報道の内容分析を行いながら、効果的な伝達方法について学びます。	1・後	30	2	○			○								
24	○		イベント企画・演習2	イベント企画・演習1の授業内で作成した計画を実施します。イベント実施への発想から実施運営までの一連の流れを経験しながら、参加機会の提供の実践的ノウハウを身につけます。	1・後	120	8		○		○								
25	○		販売士検定対策講座2	リテールマーケティング(販売士)検定3級取得に向けた専門的知識を習得します。	1・後	30	2	○			○								
26	○		球技2	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	1・後	30	1				○	○							
27	○		スポーツ自由研究A	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・通	30	1				○	○							
28	○		スポーツ自由研究B	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・通	30	1				○	○							
29	○		アウトドア実習A	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	1・前	30	1				○								
30	○		キャンピングストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1				○								
31	○		マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1				○								
32	○		初級ダイビング実習	スクーバダイビング「オープンウォーター」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	1・前	30	1				○								
33	○		スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1				○								
34	○		スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1				○								
35	○		中級ダイビング実習	スクーバダイビング「アドバンスダイバー」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	1・後	30	1				○								
36	○		キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	15	0				○	○							
37	○		キャリアアップセミナーB	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	30	1				○	○							
38	○		キャリアアップセミナーC	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	45	1				○	○							

39	○	キャリアアップセミナーD	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	60	2			○	○					○
40	○	短期海外研修A	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。	1・前	60	2			○	○					○
41	○	MFCスタッフ実習1	MFC(メディカルフィットネスセンター)スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	1・通	120	4			○	○					○
42	○	ビジネススキル3	社会人になるために必要なヒューマンスキルを身につけます。	2・前	30	2	○			○					○
43	○	PC活用3	コンピュータ・メディアを利用したコミュニケーションが及ぼす社会的、心理的影響について検討し、新たなニーズを開拓していくためのビジネスソリューションを発展させていきます。	2・前	30	2	○			○					○
44	○	ENGLISH 3	多種多様な英文の読解力を養うとともに、リーディング、ライティングを通して英語の文法事項・語彙・慣用表現などの知識や運用能力を強化・補充します。	2・前	30	2	○			○					○
45	○	スポーツビジネスレビュー3	スポーツビジネスに関する最近の事象を多角的に捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・前	30	2	○			○					○
46	○	地域プロジェクト企画・演習1	キャンパス周辺に存在する地域資源に関する情報を収集し、地の利を活用した健康増進に繋がるアクティブプログラムの設計を行います。	2・前	150	10		○		○					○
47	○	メディア活用企画・演習	インタビュー調査方法を例として取り上げ、読者や視聴者へのオーディエンス分析を行い、メディアコンテンツの生産方法とその報道過程を体験します。	2・前	60	4		○		○					○
48	○	販売士検定対策講座3	リテールマーケティング(販売士)検定2級取得に向けた専門的知識を習得します。	2・前	30	2	○			○					○
48	○	簿記検定対策講座1	簿記資格受験に求められる基礎知識を習得します。	2・前	30	2	○			○					○
50	○	国内旅行業務取扱管理者講座	国内旅行業務取扱管理者資格の取得に向けた集中講座を行います。	2・前	30	2	○			○					○
51	○	球技3	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	2・前	30	1			○	○					○
52	○	スイミングB	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	2・前	30	1			○	○					○
53	○	ビジネススキル4	社会人になるために必要なヒューマンスキルを身につけます。	2・後	30	2	○			○					○
54	○	PC活用4	コンピュータ・メディアを利用したコミュニケーションが及ぼす社会的、心理的影響について検討し、新たなニーズを開拓していくためのビジネスソリューションを発展させていきます。	2・後	30	2	○			○					○
55	○	ENGLISH 4	多種多様な英文の読解力を養うとともに、リーディング、ライティングを通して英語の文法事項・語彙・慣用表現などの知識や運用能力を強化・補充します。	2・後	30	2	○			○					○
56	○	スポーツビジネスレビュー4	スポーツビジネスに関する最近の事象を多角的に捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・後	30	2	○			○					○
57	○	スポーツ社会学	健康増進、経済活性化、国際競技力の向上といった日本のスポーツ振興に関わる政策の方向性や人権や公正といったスポーツに関わる法律や指針について学びます。	2・後	30	2	○			○					○
58	○	スポーツの歴史と発展	外来文化であるスポーツが日本においてどのような経緯を経て導入され発展していったかについて学び、これからのスポーツの様々な在り方について議論していきます。	2・後	30	2	○			○					○
59	○	地域プロジェクト企画・演習2	キャンパス周辺に存在する地域資源に関する情報を収集し、地の利を活用した健康増進に繋がるアクティブプログラムの設計を行います。	2・後	150	10		○		○					○

60		○	簿記検定対策講座2	簿記検定3級資格受験に向けた専門的知識を習得します。	2・後	30	2	○			○								
61	○		球技4	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	2・後	30	1				○	○			○				
62		○	コープ実習	スポーツ関連企業での就業体験を行います。	2・通	60	2				○	○			○				
63		○	スポーツ自由研究C	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・通	30	1				○	○			○				
64		○	スポーツ自由研究D	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・通	30	1				○	○			○				
65		○	アウトドア実習B	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	2・前	30	1				○				○				
66		○	キャンプインストラクター実習B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	2・前	60	2				○				○				
67		○	マリンスポーツ実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2・前	30	1				○				○				
68		○	スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチテストを実施します。	2・後	30	1				○				○				
69		○	スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1				○				○				
70		○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	15	0				○	○							○
71		○	キャリアアップセミナーF	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	30	1				○	○							○
72		○	キャリアアップセミナーG	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	45	1				○	○							○
73		○	キャリアアップセミナーH	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	60	2				○	○							○
74		○	短期海外研修B	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。	2・前	60	2				○				○				
75		○	MFCスタッフ実習2	MFC(メディカルフィットネスセンター)スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	2・通	120	4				○	○							○
合計					75科目	3045時間(149単位)													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1395時間(86単位)および選択科目305時間(9単位)以上取得し、合計1700時間(95単位)以上取得すること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週